

未来の  
PRINCIPAL INVESTIGATOR  
を育成します



問合せ先  
東北大学高度教養教育・学生支援機構  
大学教育支援センター  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41 川北合同研究棟201  
E-mail : tu-fpip@grp.tohoku.ac.jp



教育関係共同利用拠点提供プログラム

# 理系PIをめざすための 準備プログラム

Future Principal Investigator Program

理系のラボ主宰者（Principal Investigator: PI）を目指す研究者を  
対象とした日本初のプログラムが、東北大学でスタートします

Hello  
Future  
Principal  
Investigator!

東北大学高度教養教育・学生支援機構  
大学教育支援センター



## ご挨拶

東北大学高度教養教育・学生支援機構  
大学教育支援センター長  
農学研究科教授

**野地 智法 Tomonori NOCHI**

## メンター



**大隅 典子 Noriko OSUMI**  
東北大学副学長（広報・共同参画担当）  
附属図書館長、大学院医学系研究科教授



**寺田 眞浩 Masahiro TERADA**  
東北大学副理事（研究担当）  
大学院理学研究科教授



**折茂 慎一 Shin-ichi ORIMO**  
東北大学材料科学高等研究所 (AIMR) 所長  
金属材料研究所教授

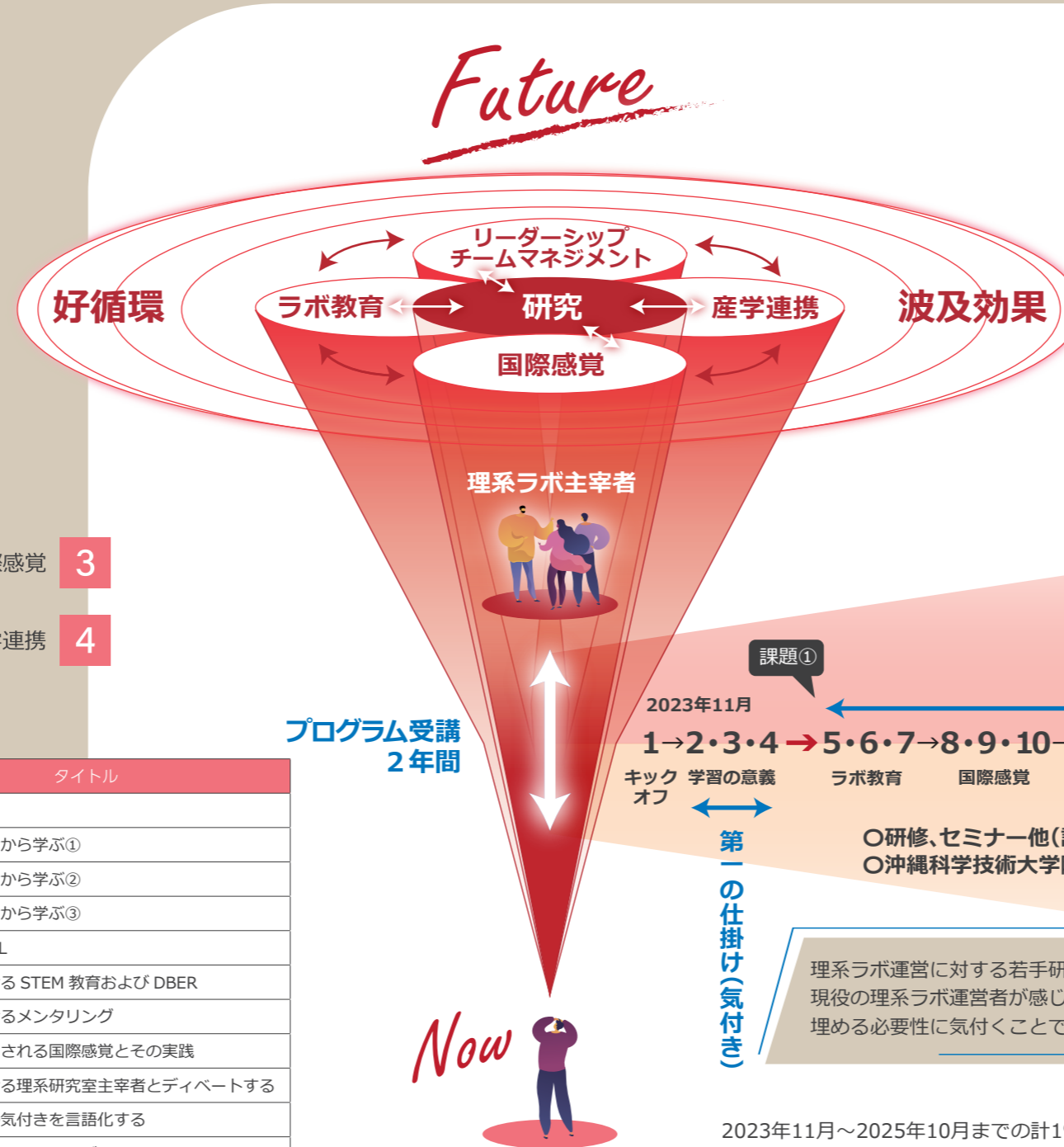
理系のラボ主宰者（Principal Investigator: PI）を目指す研究者を対象とした日本初のプログラムが、東北大学でスタートします。理系ラボを運営する上で、確固たる研究基盤が構築されていることはもちろんのこと、PIが有する研究力以外の多様な能力が必要とされていることは明確です。本プログラムでは、東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター（CPD）が抽出した、理系ラボ運営に欠かせない4要素（ラボ教育、リーダーシップ・チームマネジメント、国際感覚、産学連携）に関する学びの機会を提供します。本プログラムを通して、理系ラボPIを目指す研究者に対し、理系ラボの好循環につながる研究以外の能力開発を可能にすることで、理系ラボPIとしての準備を整えます。

## プログラムの4つの要素

- ラボ教育 **1**
- リーダーシップ・チームマネジメント **2**
- 国際感覚 **3**
- 産学連携 **4**

## スケジュール

回数	仕掛け/目的	時期	タイトル	
第1回	キックオフ	2023年11月		
第2回	第一の仕掛け (気付き)	2023年12月	現役ラボ主宰者から学ぶ①	
第3回		2024年1月	現役ラボ主宰者から学ぶ②	
第4回		2024年2月	現役ラボ主宰者から学ぶ③	
第5回	ラボ教育	2024年4月	理系ラボとSoTL	
第6回		2024年5月	理系ラボにおけるSTEM教育およびDBER	
第7回	第二の仕掛け (発想の転換)	2024年6月	理系ラボにおけるメンタリング	
第8回		国際感覚	2024年8月	理系PIに必要とされる国際感覚とその実践
第9回			2024年9月	海外大学における理系研究室主宰者とディベートする
第10回		2024年10月	海外大学からの気付きを言語化する	
第11回	リーダーシップ ラボマネジメント	2024年12月	理系ラボ主宰者のロールモデル	
第12回		2025年1月	理系ラボ主宰者に必要とされる研究インテグリティ	
第13回	産学連携	2025年2月	理系ラボおよび研究組織を統括する人材から学ぶ	
第14回		2025年4月	理系ラボ主宰者に求められる研究の社会実装	
第15回		2025年5月	理系ラボ主宰者に求められる知財戦略	
第16回		2025年6月	理系ラボ主宰者に求められるアントレプレナーシップ	
第17回	刺激を受ける	2025年8月	トップサイエンティストと交わる①	
第18回		2025年9月	トップサイエンティストと交わる②	
第19回	成果報告会	2025年10月		



目的：理系ラボ運営に関わることが期待される卓越した研究人材の育成  
対象：理系ラボを主宰することに興味のある高い研究志向型の若手大学教員  
期間：2023年11月～2025年10月  
学習方法：オンライン・対面（ハイブリッド）/2年間で4回の対面によるセミナー

第一の仕掛けからの気付きの本質を理解し、その溝を埋めるための学習を通して、理系ラボ運営に必要なとされる研究力以外の様々な能力の向上とラボ内教育のイノベーションを促進する。

## 第二の仕掛け(発想の転換)

2023年11月  
1→2・3・4 → 5・6・7 → 8・9・10 → 11・12・13 → 14・15・16 → 17・18 → 19 →  
キックオフ 学習の意義 ラボ教育 国際感覚 リーダーシップ・チームマネジメント 産学連携 刺激を受ける 成果報告

課題① 課題② 課題③

○研修、セミナー他(計19回)  
○沖縄科学技術大学院大学(OIST)訪問調査(オプション)

## 第一の仕掛け(気付き)

理系ラボ運営に対する若手研究者（＝プログラム参加者）が抱く理想と現役の理系ラボ運営者が感じる現状とのギャップを認識し、その溝を埋める必要性に気付くことでラボ主宰者となる準備を整える。

## 将来展望

理系PIを目指す若手教員が本プログラムの学びを通して、ラボ内教育のイノベーションの促進、ラボ運営の好循環につながる研究以外の能力向上を目指す。

2023年11月～2025年10月までの計19回(対面/オンライン)の内容を通して、理系PIを目指すための準備を完了する。本プログラムの主な講師は、東北大学の現役理系PI(役職者を含む)が務める。また、知的財産の活用と新規事業・産業の創出に詳しい東北大学外の関係者も、一部の講師として参加する。参加者は、プログラムを通して、①学習の意義、②海外との比較、③学習の成果に関する3つのレポートの提出が求められる(締切:①2024年3月、②2024年11月、③2025年7月)。また、2025年10月に実施される成果報告会で、2年間のプログラムを通して気付き得た内容をもとにした、今後、PIを目指す上で必要とされる行動変容について発表する。

## 運営体制

沖縄科学技術大学院大学



東北大学  
高度教養教育・学生支援機構  
大学教育支援センター



クイーンズ大学  
ティーチング&ラーニングセンター